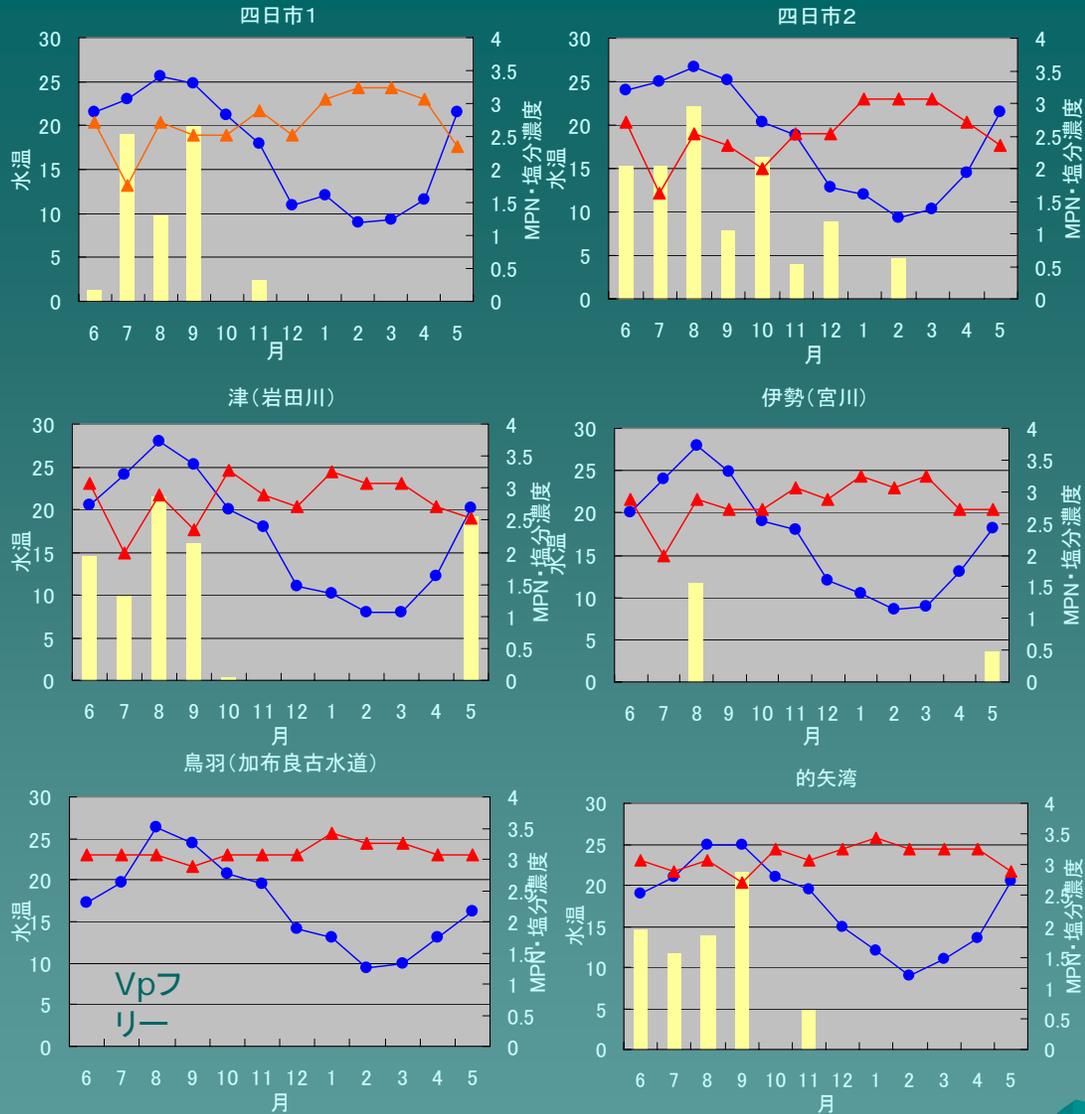
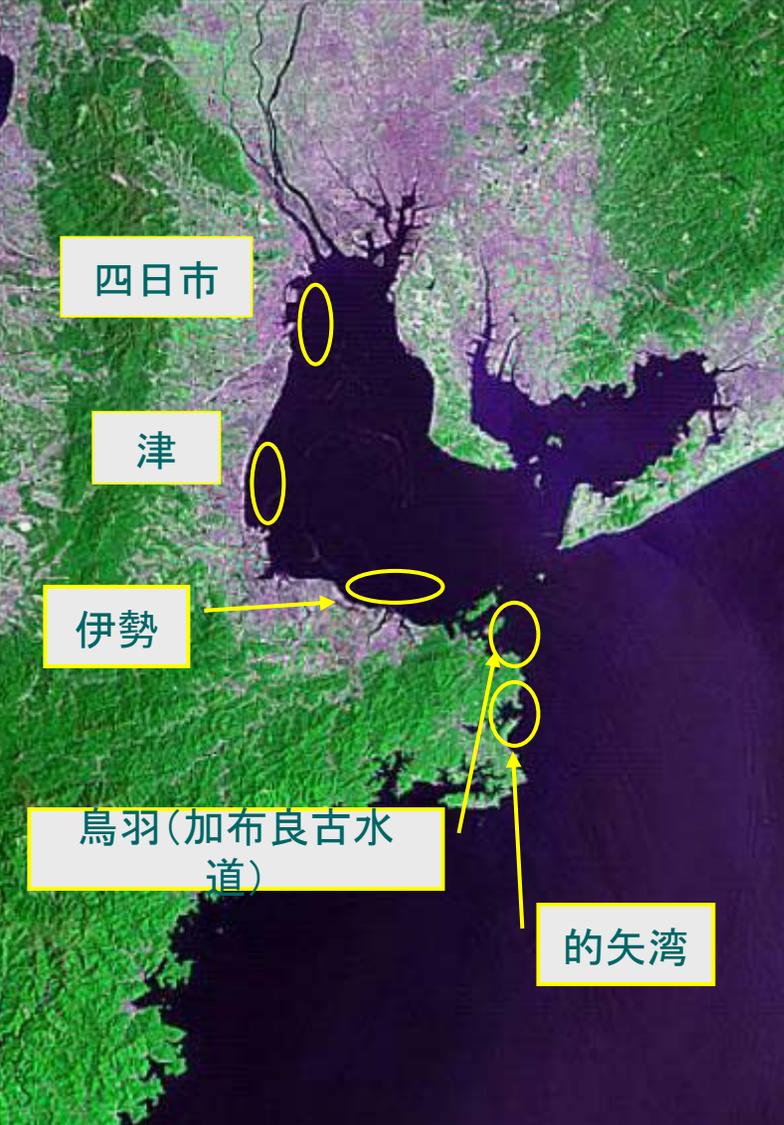


# 汽水域とVpの生息

- ・ Vpが主に生息するのは、伊勢湾沿岸では河川水の影響の大きい湾奥部であった。
- ・ 河川河口部では、干潮時に海水が残る場所に生息するイシマキガイやカキから多数分離された。しかし河川流量の多い木曾三川では、干潮時にイシマキガイが真水に浸かってしまうために、Vpは分離されなかった。
- ・ イシマキガイのVp菌量が多い河川河口部に絞って溶血毒産生Vp（TDH）の生息調査を試みたところ、宮川と三渡川から分離された。（H12・H13）

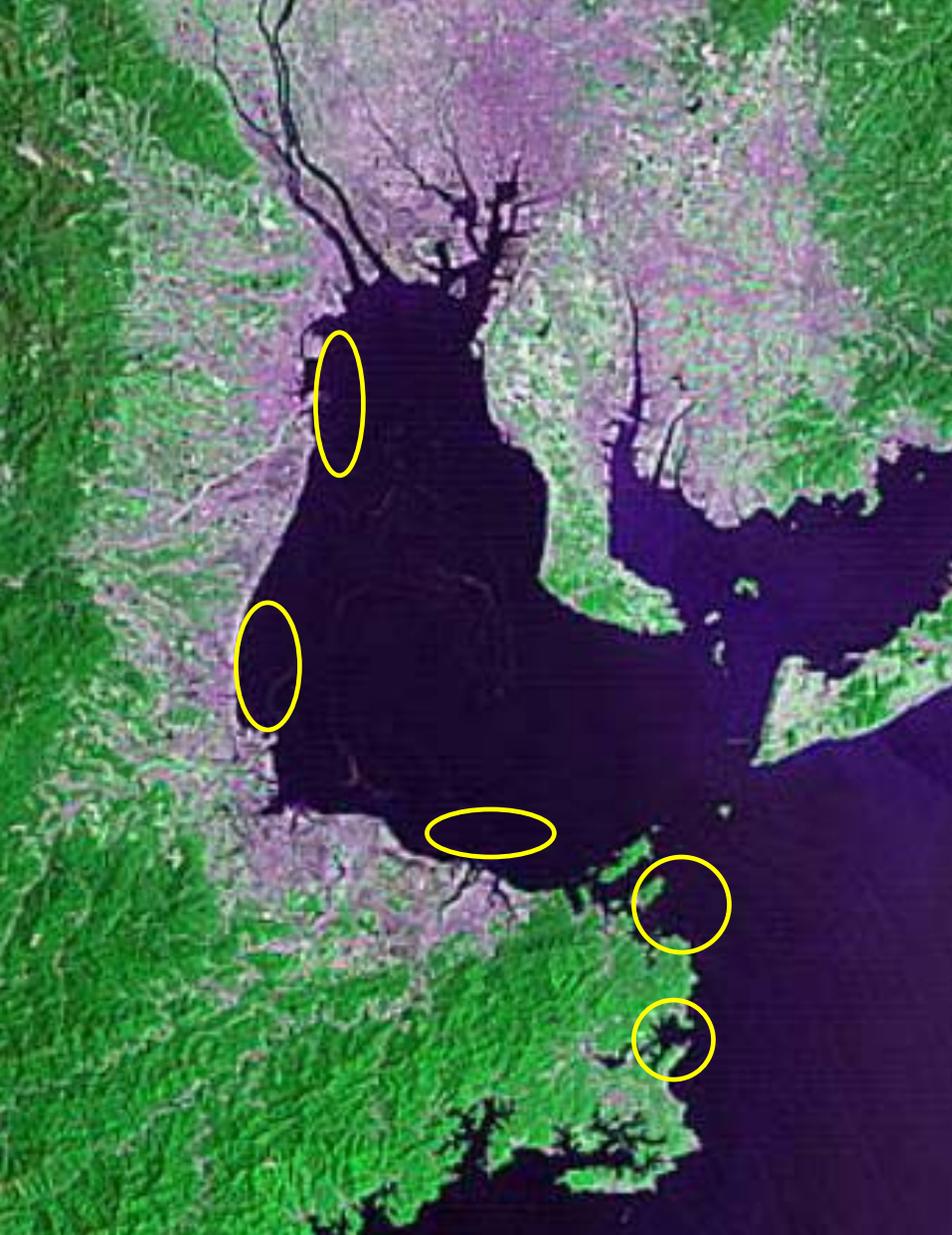
※汽水域とは、海水に河川水が混ざり、塩分濃度が低下するエリアである。伊勢湾に流入する河川水量は、木曾三川（木曾・長良・揖斐川）が約70%を占める。伊勢湾に流出した河川水は、地球の自転による遠心力により、主に三重県沿岸部に沿って流れ鳥羽の海から太平洋に注ぐ。大雨のたびに鳥羽の海は汽水化しVp増殖に好条件となる。



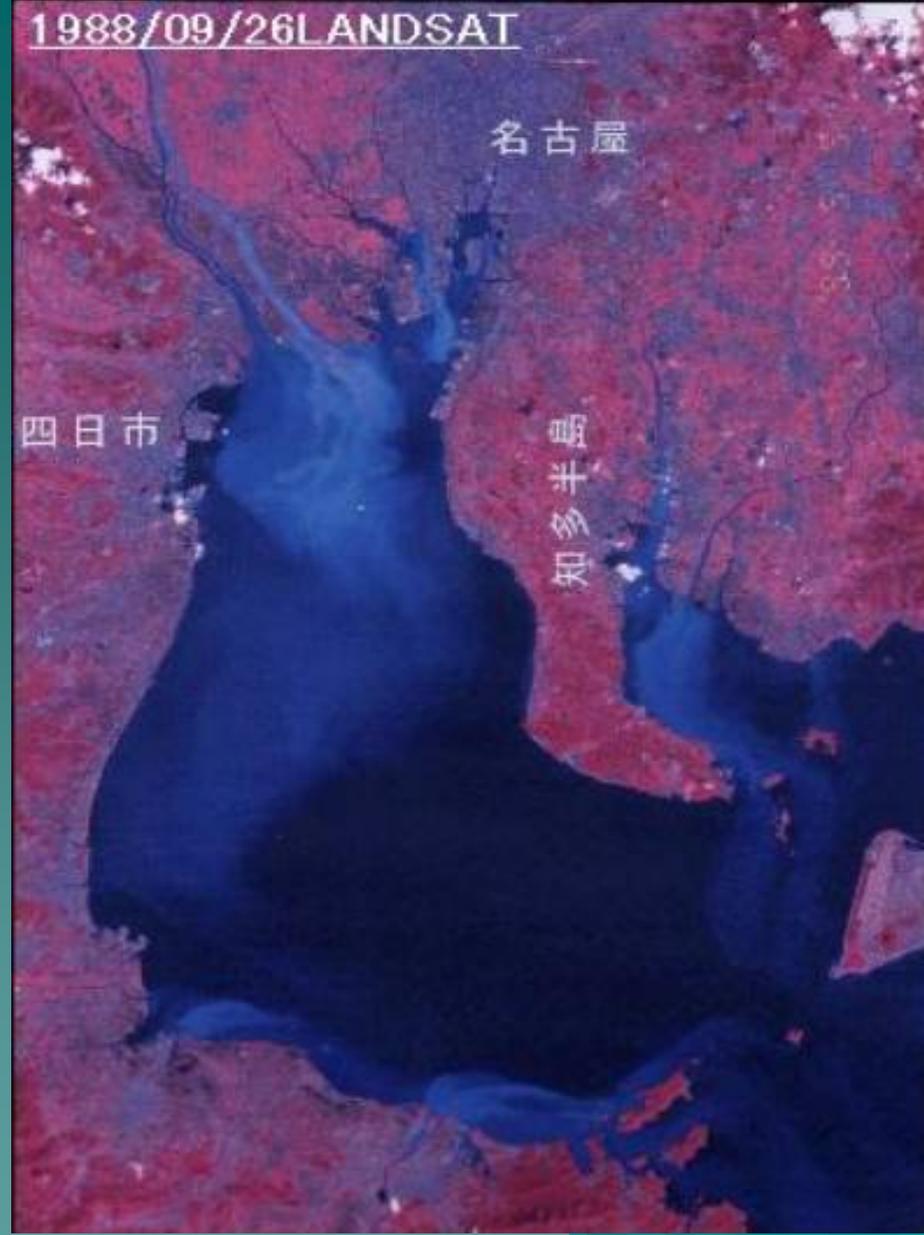
## 伊勢湾沿岸部の海水中Vp菌量(通常の海)



河川の流入があり塩分濃度に変化のある海域からVpは分離され、常に黒潮の影響を受けている海域では検出しなかった。(1996/6~1997/5)

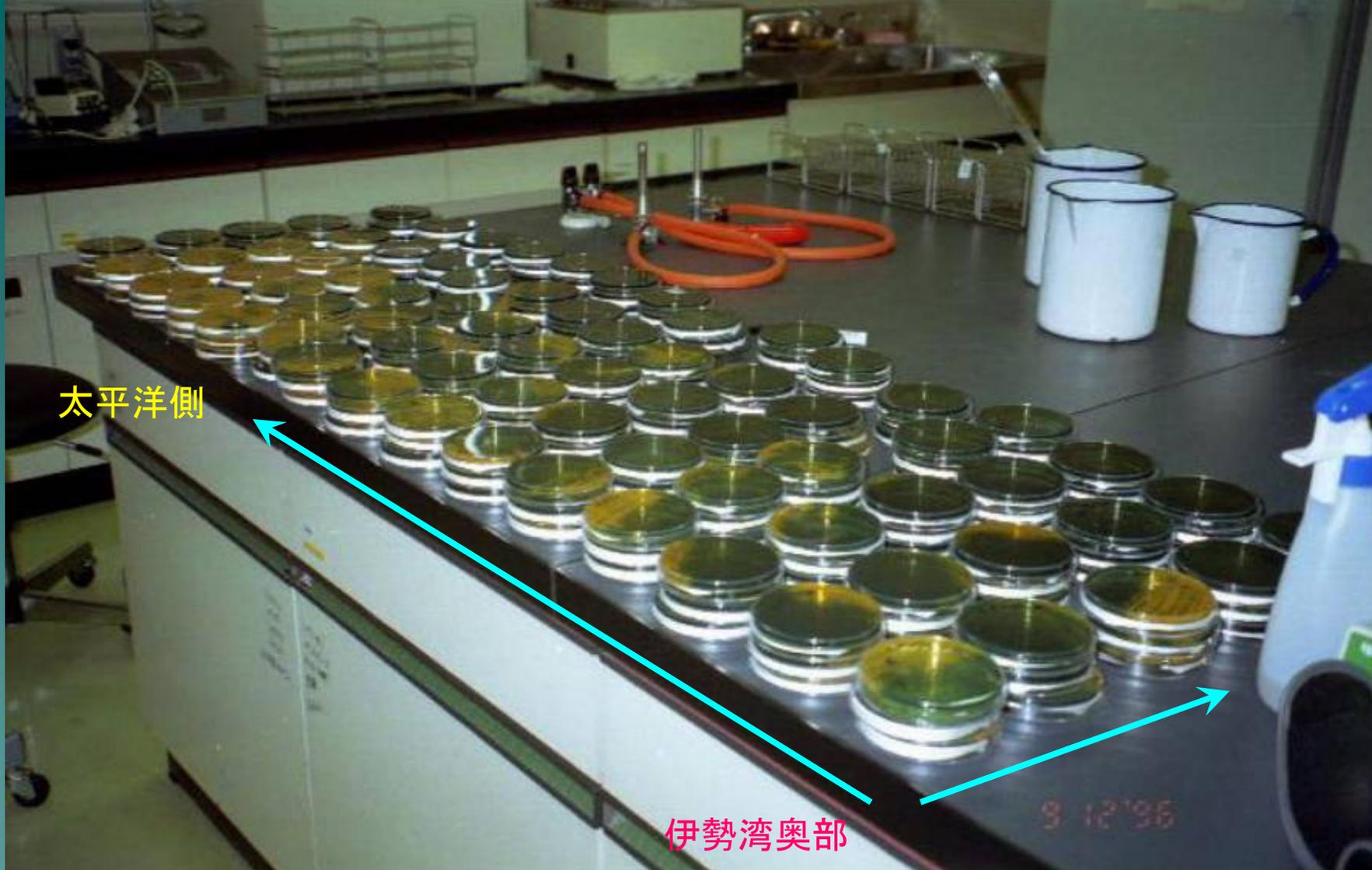


※ 毎月の採水ポイント



※ 伊勢湾に流入する河川水が白く見えている

## 伊勢湾への河川水の流入



## 海水検査の一場面(1996年9月)

河川流入で塩分濃度に変化のある伊勢湾奥部から伊勢湾口(太平洋)へ行くにつれ、TCBS寒天培地は緑色から黄変化(白糖分解菌)していく。

## イシマキガイって？

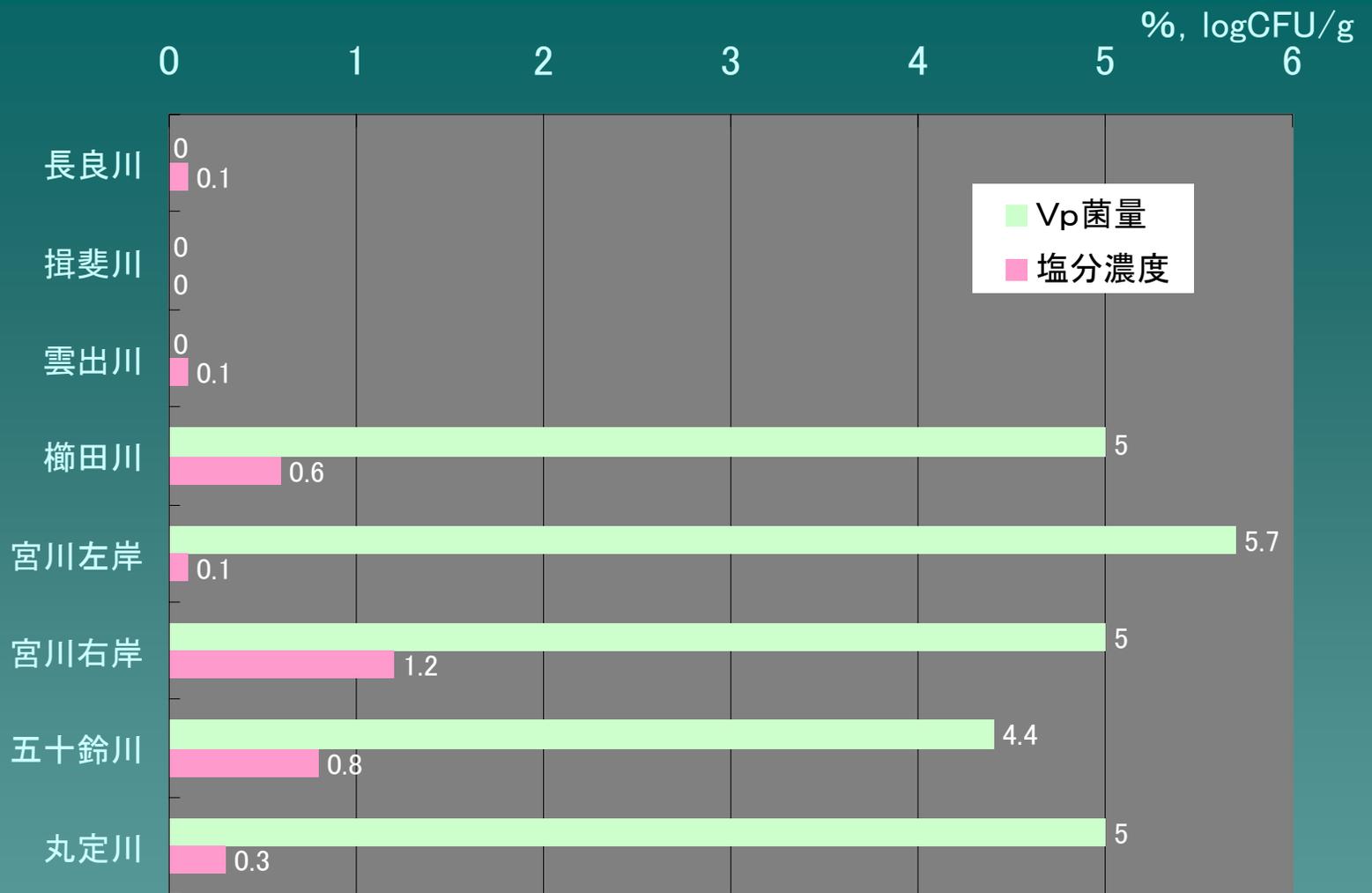


※ 巻貝の一種

※ 河川河口部の汽水域から  
上流の淡水部にかけて生息



イシマキガイは、汽水域でのみ稚貝となり、河川を遡上しながら生長する。汽水域には大小様々な大きさのイシマキガイが分布するが、上流へ遡るほど大きなもの、親貝ばかりとなり、均一の大きさのものが分布している。上流で産卵・孵化・幼生となって下流に流され、汽水域で稚貝となる生活環を繰り返している。干潮時に塩水が残る場所に生息するイシマキガイの腸管からは相当量のVpが分離される。



イシマキガイの河川別Vp菌量

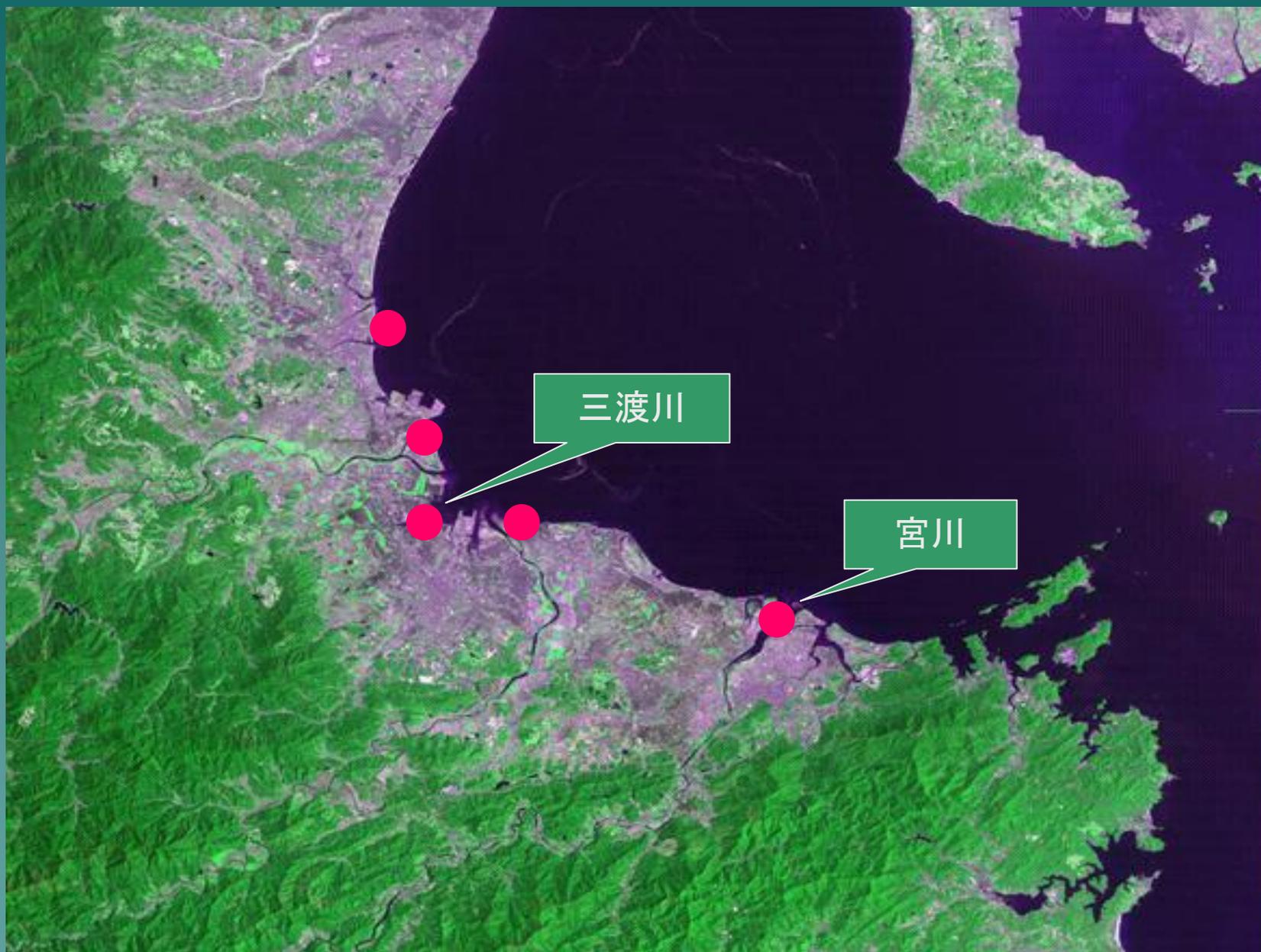
## 河口部の様子 (宮川干潮時)

干潮時でも海水  
が残っている



海水は満潮時には度会橋(河口部から約7Km上流)まで遡上。海水は淡水より1m<sup>3</sup>で約30Kg重いので、底部から河川水を持ち上げながら遡上する。干潮時は河川水に洗われない底部には海水が残り、底泥や生息貝類から相当量のVpが分離できる。各河川に共通して生息し採捕が簡単なイシマキガイをモニタリングしたVpの分離成績が前頁スライドである。

# 溶血毒產生Vp (TDH)調査



# 溶血毒産生Vp分離状況

H12				
検体名	検体数	TDH産生性腸炎ビブリオ		
		陽性数	血清型	採取場所
貝類	55	1	OUT:K28, O3:KUT	三渡川
汽水	34	1	O1:K38, O2:K3, O4:KUT	宮川
ドロ	9	1	OUT:K28, O3:KUT	三渡川
その他*	9	0		
*: タンポン, カニ, ゴカイ				
H13				
検体名	検体数	TDH産生性腸炎ビブリオ		
		陽性数	血清型	採取場所
貝類	4	2	O4:K4, O3:K5	三渡川
汽水	2	1	O4:K4, O3:K5	三渡川
ドロ	2	2	O4:K4, O3:K5	三渡川

※貝類: イシマキガイ